

3月例会は『キリマンジャロの雪』

2013年度総会は4月26日

例会のお知らせ

■名称／第65回例会『キリマンジャロの雪』

■日時／2013年3月14日(木) ①PM2:00～、
②PM4:20～、③PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■タイトル／キリマンジャロの雪

■監督／ロベール・ゲディギャン

■脚本／ジャン＝レイ・ミレシ、ロベール・ゲディギャン

■出演／アリアヌヌ・アスカリッド、ジャン＝ピエール・ダルッサン、ジェラルール・メイラン、マリリン・カント、グレゴワール・ルプランヌ＝ランゲ、アナイス・ドゥムースティエ、アドリアン・ジョリヴェ

■データ／2011年、フランス、1時間47分、ブルーレイ

■ジャンル／ヒューマンドラマ



キリマンジャロの雪

遠野マホメで暮らす結婚30年目夫婦の夫婦。アフリカ・キリマンジャロへの記念旅行を前に、強盗に押し入られる。犯人は夫の元同僚の青年で、失職して、故い第二人生を懸命に生きていた。人間を信じ、善良なる魂を描く感動作。



■解説／フランスの1996年恋愛映画『マルセイユの恋』のロベール・ゲディギャン監督が、同じくジャン・ピエール・ダルッサンとアリアヌヌ・アスカリッドを主演に、港町マルセイユを舞台に描く夫婦や家族を考えさせるヒューマンストーリー。

『マルセイユの恋』を観た人は、なつかしく感じるところもあるだろう。ロベール・ゲディギャン監督と主演女優のアリアヌヌ・アスカリッドは夫婦であり、作品だけでなく、キャストの経歴や背景を知って観ればさらに楽しめるかもしれない。

■ストーリー／ 港町マルセイユに住む結婚30年をむかえる熟年夫婦。夫ミシェルは労働組合の委員長として闘う道を行ってきた。そんな気骨あふれる夫を支えてきた妻マリ＝クレール。ある日、ミシェルが勤める会社で人員削減が行われることになり、労働組合では公平を期して退職者20名をクジで決めることに。組合委員長であるミシェルも、自分を例外とすることなくクジを引き、結果、退職となってしまふ。マリ＝クレールは、そんな夫を優しく受け止める。

そうした中、子どもや孫たちによって結婚30周年を祝うパーティが盛大に催され、そこで夫婦の長年の夢だったアフリカのキリマンジャロへの旅がプレゼントされる。ところがほどなくして、家に強盗が押し入り、大切な旅行券が奪われてしまふ。数日後、思いもよらぬ人物が犯人と分かり、さらなるショックを受けるミシェルだったが…。

加古川シネマクラブ「2012年ベストテン」

2012年の映画賞が出そろう中、加古川シネマクラブでも2008年度から細々と行っている会員が選ぶ年間映画ベストテンを選定しましたので、下表のとおりベストテンを報告します。

1月例会を中心に投票をお願いしたところ、昨年と同様の13人の投票がありました。集計方法は、1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点の配点で、単純に得点合計順としました。

投票人数が13人とたいへん少なかったのは誠に残念で偏りがあるかもしれませんが、加古川シネマクラブが選んだ2012年の年間映画ベストテンとして発表します。

洋画部門にアカデミー賞作品賞ノミネート作はありません。

順位	作品名 (邦画)	得点
1	終の信託	16
2	鍵泥棒のメソッド	15
3	あなたへ	14
4	天地明察	13
5	希望の国	12
5	内部被ばくを生き抜く	9
5	東京プレイボールクラブ	9
8	ニッポンの嘘	8
8	わが母の記	8
10	カミハテ商店	6
10	北のカナリアたち	6

順位	作品名 (洋画)	得点
1	おじいさんと草原の小学校	12
2	ニーチェの馬	9
2	別離	9
4	サラの鍵	8
5	アーティスト	7
5	木洩れ日の家で	7
5	ポエトリー アグネスの詩	7
8	人生の特等席	6
9	フューゴの不思議な発明	5
9	メランコリア	5
9	ル・アブルの靴磨き	5

定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2013年度の定例総会を下記のとおり開催いたします。1年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまには、ご出席いただきますようお願いいたします。

- 1 名称 2013年度加古川シネマクラブ定例総会
- 2 日時 4月26日(金)午後7時から(約1時間)
- 3 場所 加古川総合文化センター会議室2
- 4 内容 2012年度事業報告に関する事
2012年度決算に関する事
2013年度役員を選任に関する事
2013年度事業計画に関する事
2013年度予算に関する事
- 5 参加方法 直接会場にお集まりください。
- 6 その他 当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することによって、出席する会員に議決等を委任することができます。

また、当日、5月例会発送準備作業の一部も行いますので、作業を手伝ってくださる人は、午後6時30分にお集まりください。

今思うこと—おもしろくない映画を観る準備—

1月例会の『汽車はふたたび故郷へ』の鑑賞者の

感想は散々たるものだった。作品選定の経緯も、3番手くらいの候補だったのが、前回説明したDCP(上映用データファイル)の制限もあり、繰り上がってしまったこと、よその人の推薦や評判と予告編で判断して、選定時点では誰も全編を観ていなかったこと、など運が悪かったことと反省すべきことが重なった。その結果、例会に向かない作品で例会を行ってしまったことになる。

そうは言っても、映画ファンとしては少しだけ弁解させてください。お願いします。

この映画の上映が決まってからは、気になってオタル・イオセリアーニ監督の作品のいくつかは一応観たのです。盛り上がりも少ないし、淡々としている、おまけに音楽はほとんどない。正直言って脚本も含めておもしろくない。しかし、丁寧に撮った良質の映画であることくらいはよく分かった。評論や解説を読んでも、映画のテーマや表現の独自性など、なるほど、とうなずくところも多かった。例会でこの作品を選んでなかったら、こんな勉強はしなかっただろう。

例会会場で、わからない顔をして観ている人の横で解説をしたくてたまらなかつたくらいだ。多くの人が気になっていた人魚については、監督の映画のあり方とそれを理解してくれるモノを偶像化したもの、と私なりに解釈しています。

(ハインリッヒ)

前回例会の報告

1月23日の例会では、旧ソ連グルジアに生まれ、1979年から仏・パリを拠点に活動してきた名匠オタル・イオセリアーニが、自らの体験に基き手がけた半自伝的映画『汽車はふたたび故郷へ』を鑑賞した。

参加者からのアンケートには、「内容がよくわからない」「監視社会はいやだ」「わかりやすい作品を観たい」「邦画を観たい」と、いつにも増して、要望と意見が多く記されていました。

今回も参加会員114人とやや少なかつた。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 169人(1月23日現在)